

2018年3月期第1四半期 ご参考資料

日本通運株式会社
経営企画部(IR)

I. 経営状況	
A. 2018年3月期第1四半期決算の概要	P. 1
B. セグメント別状況	P. 2-
II. 外部環境の変化	P. 6
III. 2018年3月期の業績予想	
A. 連結業績予想(修正後)	P. 7
B. セグメント別状況(修正後)	P. 8-
C. 外部要因の想定(2Q以降)	P. 12

2017年7月31日

I. 経営状況



A. 2018年3月期第1四半期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

	2018/3期 1Q実績 ①	2017/3期 1Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷② X100	上期予想 (5/9発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤ X100	差額 ⑤-①	通期予想 (5/9発表)
売上高	4,749	4,495	254	5.7	9,450	50.3	4,700	19,300
営業利益	152	107	44	41.5	290	52.6	137	670
経常利益	169	135	33	24.7	310	54.6	140	700
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	110	73	37	50.4	190	58.4	79	420

(億円未満切捨て)

※ 2018/3月期より、当社及び一部の国内連結子会社において、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更、および一部有形固定資産の償却年数の変更を実施しております。
→ 当第1四半期においては、営業利益および経常利益が、15億円増加しております。

2) 連結経営指標 ()は前年同期実績

・売上高営業利益率 3.2% (2.4%) ・売上高経常利益率 3.6% (3.0%)

【ご参考】 ()は前年度実績

・ROA 2.8% (2.4%) ・ROE 7.8% (6.9%)

※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は前連結会計年度末と当期連結会計期間の平均値を使用し算出しております。

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

海外経済が緩やかな回復に向かうなか、世界的なIT需要の高まりを受け、電子部品などを中心として、企業の生産活動に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国内貨物は、個人消費の伸び悩みなどから、依然として荷動きに力強さを欠いたものの、国際貨物は、アジア向けを中心として電子部品などの航空貨物が伸長するなど、総じて堅調に推移。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

1) 日本

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(5/9発表)対比		
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	2,903	2,795	107	3.8	5,751	50.5	2,847
セグメント利益	101	80	21	26.5	188	53.8	86
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、トラック輸送の取扱いが伸長 ・海運は、アパレル関連の輸入や海外引越、内航輸送が増加 ・航空は、米州地域向け、アジア・オセアニア地域向けを中心に、輸出貨物重量が大きく伸長 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が12億円増加 						

2) 米州

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(5/9発表)対比		
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	220	209	10	5.2	466	47.4	245
セグメント利益	7	7	0	2.2	25	29.7	17
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・米墨間における自動車関連のトラック輸送が堅調に推移 ・航空輸出が回復し、海運輸出も伸長 						

※以下、セグメント毎の概況は、第1四半期単四半期の内容。海外の第1四半期は、1-3月期。

◇日本・・・増収、増益

鉄道輸送は、自動車関連部品や飲料品の輸送、青果物の取扱いが伸長。

トラック輸送は、自動車関連部品、鉄鋼などの荷動きが堅調に推移。

海運は、アパレル関連の輸入や海外引越、内航輸送が増加。

航空は、輸出重量が、対前年プラス32.1%と増加。

米州地域向けの自動車関連の部品や設備の輸送、アジア・オセアニア地域向けの電子部品や液晶関連、半導体製造装置の輸送が好調に推移。

輸出航空貨物の重量の方面別の内訳は、米州地域向けが、対前年プラス52.4%、欧州地域向けが、プラス1.2%、アジア・オセアニア地域向けが、プラス35.4%。

連結各社も、売上、利益に貢献。

セグメント利益については、数量の増加に伴う利用運送費や外注費、燃油費などの上昇はあったが、売上の伸長により、増益。

なお、有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合と比べ、セグメント利益が12億円増加。

◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

アメリカ、メキシコ間における自動車関連のトラック輸送が堅調に推移。

前年にあった設備輸送の反動による海運輸入の減収はあるものの、

航空輸出の回復と海運輸出の伸長により増収。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

3) 欧州

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(5/9発表)対比		
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	214	193	21	11.2	401	53.6	186
セグメント利益	8	3	4	113.7	13	61.9	4
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・航空輸出が回復し、オランダにおける倉庫配送業務の、新規および既存顧客の取扱いが伸長 ・イタリアにおけるアパレル関連の海運輸出や、ドイツにおける自動車、電子機器関連の荷動きが堅調に推移 						

4) 東アジア

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(5/9発表)対比		
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	268	240	27	11.4	496	54.1	227
セグメント利益	4	0	3	-	10	40.3	5
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・倉庫配送業務とトラック輸送が堅調に推移 ・航空利用費の高止まりの影響を受け、計画よりも回復は鈍化 						

◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

航空輸出が回復し、オランダにおける倉庫配送業務の新規および既存顧客の取扱いが伸長。

イタリアにおけるアパレル関連の海運輸出の増加や、ドイツを中心とした自動車関連、電子機器関連の荷動きが堅調に推移。

フランス・イタリアにおける非日系顧客の取扱いが拡大。

◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

倉庫配送業務とトラック輸送が堅調に推移。

昨年後半から復調してきた航空輸入、海運輸出入に加え、航空輸出も回復。

一方、中国におけるチャーター便規制の延長に起因する、航空利用費の高止まりの影響を受け、計画と比べ、回復の足取りが鈍い。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(5/9発表)対比			
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	194	164	29	18.0	404	48.1	209
セグメント利益	7	4	2	61.4	15	52.5	7
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・地域全体で、倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移 ・非日系顧客の医薬品関連や電子部品関連の出荷を中心に、航空輸出も復調 						

6) 警備輸送

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(5/9発表)対比			
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	143	137	6	4.5	288	49.9	144
セグメント利益	5	4	1	30.5	9	58.4	3
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュ・ロジスティクスの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが増加 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が1.5億円増加 						

◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

地域全体で倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移。

非日系顧客の医薬品関連や電子部品関連を中心に、航空輸出が復調。

コストコントロールの推進により、売上とともに利益も伸長。

◇警備輸送・・・増収、増益

キャッシュ・ロジスティクスの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが進み、増収。

なお、有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合に比べ、1億5千万円利益が増加。

I. 経営状況



B. セグメント別状況

7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(5/9発表)対比			
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	123	105	17	16.2	246	50.1	122
セグメント利益	9	7	2	35.3	21	46.3	11
概況	<ul style="list-style-type: none"> 国内のシャット・ダウン・メンテナンス業務と、重電関連工事等が堅調に推移し、増収 有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が7千万円増加 						

8) 物流サポート

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(5/9発表)対比			
	18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	1,007	940	66	7.1	2,074	48.6	1,066
セグメント利益	24	13	11	89.8	44	56.5	19
概況	<ul style="list-style-type: none"> 石油類の販売単価上昇により、増収 輸出梱包業務等のロジスティクス・サポート事業も堅調に推移 軽油引取税にかかる昨年度の経理処理の変更により2億円、利益が増加 有形固定資産の減価償却方法の変更により8千万円、利益が増加 						

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第1四半期 参考資料

5

◇重量品建設・・・増収、増益

国内において、シャット・ダウン・メンテナンス業務と重電関連工事などが堅調に推移。
 なお、有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合に比べ、7千万円利益が増加。

◇物流サポート・・・増収、増益

日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上が増加したほか、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も堅調に推移。
 なお、軽油引取税にかかる昨年度の経理処理の変更により2億円、有形固定資産の減価償却方法の変更により8千万円、従来の方法によった場合に比べ、利益が増加。

II. 外部環境の変化



増減要素（1Q）

変動要素	連結業績への影響 (1Q)	参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 +6.4億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 86.75円/ℓ (74.68円) ガソリン: 120.53円/ℓ (108.82円) 船舶重油: 42.45円/ℓ (31.89円)
為替による影響	売上高 Δ25.6億円 営業利益 Δ0.5億円	(前年同期) USD: 113.64円 (115.48円) EUR: 121.08円 (127.23円) HKD: 14.65円 (14.85円) RMB: 16.57円 (17.61円)

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	2018/3期 業績予想 ①	前年同期対比			期首予想 (5/9発表) ⑤	期首予想からの修正幅		
		2017/3期実績 ②	増減額 ③=①-②	増減率 ④=③÷② x100		増減額 ⑥=①-⑤	増減率 ⑦=⑥÷⑤ x100	
通期	売上高	19,400	18,643	756	4.1	19,300	100	0.5
	営業利益	670	574	95	16.7	670	-	-
	経常利益	700	638	61	9.7	700	-	-
	親会社株主に 帰属する 当期純利益	420	364	55	15.2	420	-	-
上期	売上高	9,610	9,092	517	5.7	9,450	160	1.7
	営業利益	310	244	65	26.8	290	20	6.9
	経常利益	330	281	48	17.2	310	20	6.5
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	200	182	17	9.3	190	10	5.3

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第1四半期 ご参考資料

7

◇修正に至った背景

国内貨物は、依然として荷動きに力強さを欠いているが、航空運送を中心とした国際貨物の輸送需要が堅調に推移。

一方、利用運送費や外注費の仕入れ単価の動向、海外情勢などについては、不確実性が高い状況が継続しており、下期以降の荷動きは、見通しが難しい状況。

海外においても、中国における航空規制の継続や米国における政治的リスクなど、為替の動向も含め、先行きが不透明な情勢は継続。

連結通期の営業利益、経常利益、および、親会社株主に帰属する当期純利益は、利用運送費や外注費といった仕入単価の動向などを勘案し、据え置き。

個別の業績予想についても、通期、および上期の売上高、営業利益、経常利益ならびに親会社株主に帰属する当期純利益を修正。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想 B. セグメント別状況（修正後）



1) 日本

（単位：億円、％）

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	11,814	11,557	256	2.2	11,705	109	0.9
	セグメント利益	454	386	67	17.4	449	5	1.1
	セグメント利益率	3.8	3.3			3.8		
上期	売上高	5,831	5,662	168	3.0	5,751	80	1.4
	セグメント利益	201	164	36	21.9	188	13	6.9
	セグメント利益率	3.4	2.9			3.3		

2) 米州

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	946	838	107	12.8	936	10	1.1
	セグメント利益	51	47	3	6.9	49	2	4.1
	セグメント利益率	5.4	5.7			5.2		
上期	売上高	470	419	50	12.1	466	4	0.9
	セグメント利益	25	24	0	2.8	25	-	-
	セグメント利益率	5.3	5.8			5.4		

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第1四半期 ご参考資料

8

◇日本

航空輸出の取扱いが増加していること、連結会社の取扱いが堅調であることから、上期および通期で増収、増益を見込む。

引き続き、適正料金の収受に努めるとともに、利用運送費や外注費など費用のコントロールに取り組み、売上、利益の確保を図る。

◇米州

アメリカにおける人件費など各種費用の上昇や、メキシコにおける前年の設備輸送の反動減などにより、利益率が低下しているが、自動車関連の取扱いは堅調に推移。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想 B. セグメント別状況（修正後）



3) 欧州

（単位：億円、％）

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	885	792	92	11.6	811	74	9.1
	セグメント利益	35	20	14	72.4	28	7	25.0
	セグメント利益率	4.0	2.6			3.5		
上期	売上高	443	391	51	13.2	401	42	10.5
	セグメント利益	17	8	8	98.7	13	4	30.8
	セグメント利益率	3.8	2.2			3.2		

4) 東アジア

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	1,084	1,017	66	6.5	1,038	46	4.4
	セグメント利益	19	11	7	70.0	29	△10	△34.5
	セグメント利益率	1.8	1.1			2.8		
上期	売上高	541	476	64	13.5	496	45	9.1
	セグメント利益	8	5	2	33.9	10	△2	△20.0
	セグメント利益率	1.5	1.3			2.0		

◇欧州

アパレル関連の輸出や非日系顧客の取扱いが好調。

ドイツの自動車関連、電子機器関連の取扱いも堅調に推移。

◇東アジア

倉庫業務の取扱い減少については、施設の再編に目途がつき、地域全体として、自動車関連、電子機器関連の取扱いが堅調に推移。

航空利用費の高止まりにより、当初の計画と比べ、回復に遅れがある。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想 B. セグメント別状況（修正後）



5) 南アジア・オセアニア

（単位：億円、％）

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	805	703	101	14.4	856	△51	△6.0
	セグメント利益	31	24	6	24.7	31	-	-
	セグメント利益率	3.9	3.5			3.6		
上期	売上高	396	341	54	16.0	404	△8	△2.0
	セグメント利益	15	11	3	34.2	15	-	-
	セグメント利益率	3.8	3.3			3.7		

6) 警備輸送

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	568	547	20	3.7	579	△11	△1.9
	セグメント利益	16	9	6	65.8	18	△2	△11.1
	セグメント利益率	2.8	1.8			3.1		
上期	売上高	287	274	12	4.6	288	△1	△0.3
	セグメント利益	8	4	3	78.7	9	△1	△11.1
	セグメント利益率	2.8	1.6			3.1		

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第1四半期 参考資料

10

◇南アジア・オセアニア

電気製品、電子部品、アパレルなどの輸出が堅調に推移。

非日系顧客の医薬品関連の取扱いも増加。

◇警備輸送

キャッシュ・ロジスティクスのプラットフォーム構築による、
金融機関からのアウトソーシングの獲得に、引き続き取り組む。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想 B. セグメント別状況（修正後）



7) 重量品建設

（単位：億円、％）

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	461	469	△8	△1.9	486	△25	△5.1
	セグメント利益	36	38	△2	△7.3	40	△4	△10.0
	セグメント利益率	7.8	8.3			8.2		
上期	売上高	241	222	18	8.3	246	△5	△2.0
	セグメント利益	21	17	3	18.4	21	-	-
	セグメント利益率	8.7	8.0			8.5		

8) 物流サポート

	18/3期 業績予想	前年同期対比			期首予想 (5/9発表)	期首予想からの修正幅		
		17/3期	増減額	増減率		増減額	増減率	
通期	売上高	4,263	4,039	223	5.5	4,333	△70	△1.6
	セグメント利益	106	100	5	5.8	101	5	5.0
	セグメント利益率	2.5	2.5			2.3		
上期	売上高	2,056	1,920	135	7.1	2,074	△18	△0.9
	セグメント利益	52	33	18	54.3	44	8	18.2
	セグメント利益率	2.5	1.8			2.1		

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第1四半期 参考資料

11

◇重量品建設

上期は、国内のシャット・ダウン・メンテナンス業務が堅調だが、下期には、一段落する見込み。

◇物流サポート

石油類の販売単価は上昇しているが、当初の見通しほどの増収が見込めないことから、修正。

輸出梱包の取扱いは堅調に推移。

物流機器販売における設備案件も増加。

II. 外部環境の変化



C. 外部要因の想定（2Q以降）

変動要素	連結業績への影響 (2Q以降の9ヵ月)	前提条件
燃油費単価変動による影響	燃油費 +5.5億円 (費用増)	<p>(前期年間平均)</p> <p>軽油 : 84.73円/ℓ (79.87円) ガソリン : 120.81円/ℓ (113.79円) 船舶重油 : 41.64円/ℓ (36.10円)</p> <p>※使用量は前年と同量と想定</p>
為替による影響	売上高 +136.3億円 営業利益 +5.3億円	<p>年間為替レート</p> <p>(前期年間平均)</p> <p>USD : 112.60円 (108.84円) EUR : 125.00円 (120.33円) HKD : 14.40円 (14.02円) RMB : 16.50円 (16.37円)</p> <p>「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</p>



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。